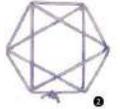




中国新聞創刊130周年記念事業

安野光雅美術館コレクション



安野先生 Amazing School of ANNO Mitsumasa ふしぎな 学校

from
Anno Art Museum Collection

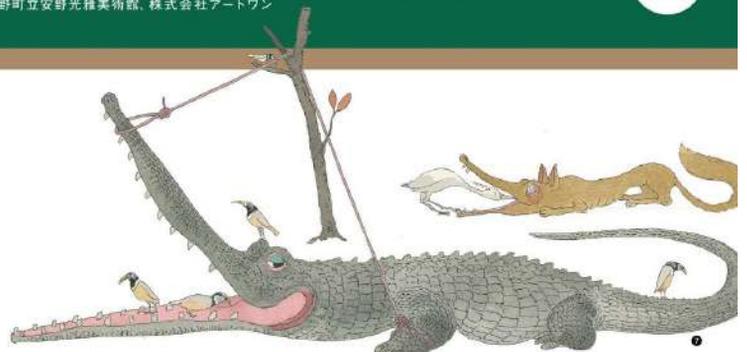
2022年7月8日(金) - 9月4日(日) 会期中 無休 開館時間 9時~17時(全曜日は20時まで開館)
※入場は閉館30分前まで ※7月8日は10時開場

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開館情報等に変更の生じる場合がございます。最新情報は広島県立美術館(電話・HP・SNS)まで

入場料 | 一般 1,400(1,200)円、高・大学生 1,000(800)円、小・中学生 700(500)円 ※()内:前売・20名以上の団体料金。 ※前売券は、広島県立美術館、セブンチケット(セブンコード:095-162)、広島市・県市内の主なプレイガイド、画塾・画材店、ゆめタウン広島、中国新聞社読者広報部、中国新聞各販売所(取り寄せ)などで販売しています。 ※学生券をご購入・ご入場の際は、学生証の提示をお願いします。 ※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳及び軽度障害者手帳の所持者と介助者(1名まで)の当日料金は半額です。手帳をご提示ください。

※会期中、本展チケットのご提示(半券可)により、100円で鑑賞園にご入園いただけます。 主催 | 広島県立美術館、中国新聞社、イズミテクノ、広島ホームテレビ 後援 | 中国放送、広島テレビ、テレビ新広島、広島エフエム放送、FMちゅーピー 76.6MHz、エフエムふくやま、尾道エフエム放送、FMつかいち76.1MHz、FM東広島89.7MHz 協賛 | 広島県信用組合、一般財団法人ケンシン地域振興財団 企画協力 | 津和野町立安野光雅美術館、株式会社アートワン

ワンコイン
鑑賞園



広島県立美術館
Hiroshima Prefectural Art Museum

① 黒山村立すずめ小学校校歌「大志の歌」より 2005年 ② 「まよひみち」はじめてであううがくの絵本3より 1982年 ③ 「ふしぎなりの」はじめてであううがくの絵本1より 1982年 ④ 「マッパの種」空想工房の絵本より 2014年 ⑤ 「ABCの本へそまがりのアルファベット」より 1974年 ⑥ 「かげぼうし」より 1976年 ⑦ 「オオカミとサギ」きつねがひろったインプちものがたり1より 1987年 ⑧ 「天竺鼠の絵本—てんがうごいていたところはなし—」より 1979年 ⑨ 「嵐の市」より 1983年
©空想工房 画像提供:津和野町立安野光雅美術館

開催趣旨

画家 安野光雅氏(1926-2020)は、四方を山々に囲まれ城下町の風情がのこる津和野(島根県鹿足郡)で、さまざまに空想をめぐらせながら少年時代を過ごしました。独自の世界観をもつ絵本作品は、国際アンデルセン賞画家賞を受賞するなど国内外で高く評価され、さらに装丁デザインや執筆活動など、その活躍は幅広い分野に及びます。本展では、画家として独立する前の教員時代に着目し、多彩なジャンルの作品を学校の授業科目に見立ててご紹介します。なんでも独学で取り組み、「自分で考えてみることの大切さ」を教えてくれた安野先生。本展をとおして、ぜひ自分なりの「インタレスト！」を見つけてください。

何でもくつつく、魔法のくすりを発明したこびとくん。数学だけでなく日常語としても使われる「かける」という考え方を学ぶお話です。

「ふしぎなおり」『はじめてであうすうがくの絵本1』より 1982年



プロローグ

安野先生は画家としての道を歩みましたが、一時期、小学校の教師として教鞭をとりました。まだ戦後の復興途中で教科書も十分になかったため、自分で教材を作り、子どもたちだけでなく自身も一緒に楽しめるオリジナルな授業を行いました。のちの絵本作品にみることのできる独創性あふれる世界観は、少年時代の遊び心に加えて、教員時代の発想と経験も影響しているといえるでしょう。

動物たちが通う架空の学校の校章や、彼らの志を高らかに歌う校歌をまとめた、空想とユーモアあふれる作品。

「里山村立すずめ小学校 校歌」『大志の歌』より 2005年



朝の会

安野先生は島根県鹿足郡津和野町に生まれました。13歳で山口県の宇部に移りますが、津和野小学校を卒業するまでの12年の日々が、画家・安野光雅の大きな土台を作り上げました。子どもの頃から空想が大好きで、山の向こう側の世界を想像したり、休み時間には校庭で遊んでいる友達のセリフをアテレコで想像して楽しんでいたそうです。故郷の豊かな自然や人々との交流が、のちに生み出される独特な世界観の源となったといえるでしょう。

安野先生が少年時代を思い出しながら描いた、故郷・津和野の風景。左下に津和野駅、安野光雅美術館も描かれています。

「津和野の記憶2012」2012年



こくご

安野先生の絵本に描かれる物語には、世界の名作や日本の昔ばなしに先生独自のユーモアを効かせて表現されたものと、先生自身の頭の中にある空想の世界が繰り広げられるものがあります。「解釈もみんな違うのはあたりまえで、それぞれに感じる事が大事です」と安野先生は言いのこしています。再び時間を置いて読み返してみると、読み手の年齢や環境の変化により、新たな発見や楽しみに出会えることもあります。それも、安野先生の空想物語の魅力のひとつといえるでしょう。



外国の童話に着想を得た創作物語。水彩で描かれた光の世界と、切り絵で表現された影の世界、二つの世界が並行して展開し、最後は一つのお話へとつながります。

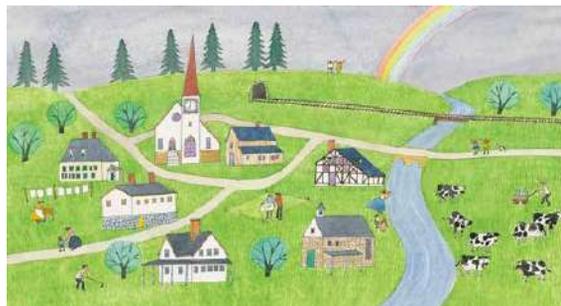
『かげぼうし』より 1976年

さんすう

日本語の「算数」や「数学」を英語で言いかえると[Mathematics]ですが、その語源にあたる古代ギリシャ語では、単に計算することだけでなく、知識を学び考えるということも意味します。数や数学をテーマにした安野先生の絵本には、くらしの中でのめごとを順序立てて考えてみたり、その法則やきまりを自分で導き発見する喜びをつかみ取ってほしいという願いが込められています。かわいいイラストも楽しみながら、そこに何が描かれているかじっくり考えてみましょう。

ページをめくるたびに家や木が増え、季節も移り変わっていきます。そもそも数とは何か、という数学の根本を考えさせてくれる作品。

「7」『かぞえてみよう』より 1975年



ずこう・おんがく

〈ずこう〉では、点や線で実験的に描いた写生や、森の風景に安野先生の遊び心をちりばめて表現した『もりのえほん』、〈おんがく〉では、安野先生の描く歌の世界を紹介します。ふるさとや懐かしい子どもの頃の風景を思い出すと、ふしぎと子ども時代に習った歌もいっしょに口ずさんでしまう方も多いのではないのでしょうか。安野先生も制作しながら、少年時代の思い出、あるいは教員として子どもたちに歌を教えていた頃を思い出していたのかもしれませんが。

山でのスケッチをもとに、緻密な線描で描かれた森の中に、たくさんの動物を隠し絵のように潜ませています。自分の眼で、よく見ることを促す仕掛けが施された絵本。

『もりのえほん』より 1977年



しゃかい

安野先生の描く風景には、美しい景色とともに、人々のくらしも余すところなく描かれています。36歳の頃に初めて海外旅行に出かけますが、日本だけでなく、ヨーロッパをはじめアジアやアメリカなど世界のいろいろな国々にも出かけ、90歳を過ぎてもスケッチ旅行を精力的に続けました。ここでは、世界中の人やモノであふれ楽しい会話も聞こえてきそうな『蚤の市』と、世界のさまざまな風景を紹介します。たとえ住む国や地域は違って、同じ時間の流れを感じられるのではないのでしょうか。

さまざまな国の古道具がずらりと並ぶ市場の風景。長い時間を経てきた古いものに対する、あたたかな眼差しが感じられます。

『蚤の市』より 1983年



りか

数学や科学や物理などの理系の教科は、複雑な公式や法則もあり難しく感じる人もいます。しかし、理系・文系のどちらであっても、分からない事を予測したり空想して考えてみたりするプロセスは同じではないでしょうか。絵描きになった安野先生も、小さな頃からジャンルを問わずいろいろ空想する日々を過ごしていました。理科にまつわる絵本には、単に新しい物事を教わるだけでなく、その物事の仕組みや成り立ちも分かって欲しいという安野先生の願いが込められています。

遠い昔の人たちが疑いなく信じていた“天動説”からはじめ、年月を経ながら“地動説”を知った人びとの驚きと悲しみを描いています。

『天動説の絵本—てんがうごいていたころのはなし—』
より 1979年

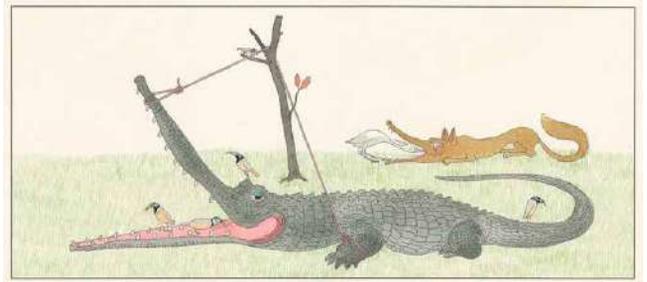


えいご

世界中を旅した安野先生の英語は、読書によって身につけたそうです。ヨーロッパに出かける前には、龍口直太郎の英和対訳本『宝島』『イソップ寓話』『聖書物語』『ギリシャ神話』などのよく知られた物語の英語と翻訳を読み比べることで、英語力を鍛え上げたそうです。そのおかげで、外国の児童文学も詳しくなり、安野先生独自の味付けで新たな絵本も生み出しました。ここでは、イソップ物語を基にしたユーモアあふれる作品と、英訳され世界で親しまれた安野先生の絵本を展示します。

子ギツネが拾ってきたイソップ物語の絵本を、文字の読めないとうさんギツネが絵をみて想像した空想のストーリーで子ギツネに読み聞かせるという、一風変わった構成のお話。

『オオカミとサギ』『きつねがひろったイソップものがたり1』
より 1987年



終わりの会

これまでの科目でみたような、ふしぎな空想の世界や興味がわく絵本をのこしてくれた安野先生ですが、人生の教訓を教えてくれる絵本も数多く描きました。ここでご紹介する『おおきなものの すきな おうさま』は、大きなものが大好きな王様が、家来になんでも大きなものを作らせるお話です。ユニークな発想とかわいらしいタッチで描かれていますが、自然の中に私たちは生かされているという命の尊さを、子どもだけでなく大人にも自然と気づかせてくれるそんな絵本です。

王様がつくらせた巨大な植木鉢には、可愛らしい、小さなチューリップが咲きました。どれだけ権力のある人間でも、自然の摂理にはあらがえないことを教えてくれます。

『おおきなものの すきな おうさま』より 1976年



自由研究

ここでは、安野先生の絵本作家にとどまらず多彩に活躍した仕事より、ポスターデザインと本の装丁、そして味わい深い和歌で綴った書を紹介します。ポスターは一瞬で目を引き印象に残り、装丁は手に取りたくなるものばかりです。教師、画家、イラストレーターと活躍の場をどんどん広げていった安野先生は、多くのものをのこし楽しませてくれました。

井上ひさし氏とは深い親交があり、氏が旗揚げした「劇団こまつ座」の宣伝美術を手がけました。遅筆で知られる井上氏の台本が出来上がらないうちに、ポスターを制作したこともあったといいます。

こまつ座ポスター『黙阿彌オペラ』 1995年



【媒体掲載用の画像提供について】

※いかなる場合も本プレスリリースからの転用は御遠慮ください。

※都合により出品作品が異なる場合がございます。御了承ください。

※画像については提供が可能です。画像掲載の際には、当館までお問い合わせください。

※画像掲載の際には、画像とテキストが掲載されたレイアウト原稿を事前に当館まで御提出いただき、1週間程度お時間を頂戴いたします。



【関連イベント】

■記念講演会(共催:広島県立美術館友の会)

「追悼 安野光雅先生」

日時:7月8日(金)13:30~15:00 [開場13:00]

講師:大矢鞆音(津和野町立安野光雅美術館館長)

会場:地階講堂

※聴講無料、要事前申込(TEL.082-221-6246)

■絵本の読みかたり

絵本「おおきなもののすきなおうさま」の読みかたりをします。

日時:7月25日(月)14:00~

出演:渡辺美佳(広島ホームテレビアナウンサー)

会場:3階ロビー

※定員30名程度

■ワークショップ ※定員に達したため受付を終了しました。

「世界にひとつの本をつくろう」

表紙を描いて、紙を選んで・・・こだわりのつまった、自分だけの本を手作りします。

日時:8月6日(土)13:30~16:00

講師:ミヤタタカシ(イラストレーター、絵本作家)

会場:地階講堂

※材料費500円

※要事前申込(TEL.082-221-6246) ※定員20名 ※未就学児は保護者同伴

■ワークショップ ※定員に達したため受付を終了しました。

「ずこう:縮景園で『もりのえほん』をかいてみよう」

日時:8月10日(水)13:30~16:00

講師:弘津かおる(当館職員、アーティスト)、森万由子(当館学芸員)

会場:地階講堂、縮景園

対象:小学生

※要入館券

※要事前申込(TEL.082-221-6246) ※定員10名

■セルフワークショップ

「しゃかい:『蚤の市』でおかいもの」

絵本『蚤の市』の世界に入り込み、おかいものに出かけた気分で、
ほしいものを見つけましょう。

会場:3階ロビー



■コンサート

「おんがく:音楽室の楽器たち」

日時:7月29日(金)14:00～

演奏者:Duo(野口美紀 & Terako)

会場:1階ロビー

■学芸員によるギャラリートーク(ワイヤレスガイド使用)

日時:7月15日(金)、8月12日(金) 各日16:00～

会場:3階展示室

※要入館券

※要事前申込(TEL.082-221-6246) ※定員15名

■インスタギャラリートーク

日時:7月21日(木)、8月18日(木) 各日17:00～

展示室から担当学芸員によるギャラリートークをライブ配信

出演:森万由子(当館学芸員)



公式インスタグラム

■プラネタリウム投影

「星空ツアー 今夜の星空と『幻の星座さがしー夏秋編一』」

7月10日～10月16日の毎週日曜日16:00～(約50分)

7月31日(日)のみ、森万由子(当館学芸員)登壇

会場:5-Daysこども文化科学館プラネタリウム(広島市中区基町5-83)

詳しくは5-Daysこども文化科学館HPをご覧ください。

<http://www.pyonta.city.hiroshima.jp/>

※要チケット

【展覧会特別メニュー】

1階レストラン Zona ITALIA in Centro(ゾーナ イタリア イン・チェントロ)

安野先生のふるさと島根県鹿足郡津和野町の産品である焼きアイスをイタリアンでコラボさせていただきました。

イタリアにも同じようなドルチェがあり、南イタリアのシチリア発祥のドルチェでブリオッシュ・コン・ジェラートこちらを今回展示期間中に提供させていただきます。

当店では熱々に焼いたブリオッシュの上をキャラメリゼし、パンの中にバニラジェラートをサンドして、フランボワーズを合わせたクリームを添えて食べていただきます。

こちらのメニューはランチセットで+300円、ケーキセットでの提供となっております。



3階ティールーム 徒夢創家(トムソーヤ)

縮景園 泉水亭

昔なつかしい学校給食 850円(数量限定)

ふしぎな学校にちなみ、昔なつかしい給食を再現しました。

やきそばはコッペパンに挟んで「やきそばパン」に！





【開催概要】

メインタイトル : 安野光雅美術館コレクション 安野先生のふしぎな学校

会期 : 2022年7月8日(金) ~ 9月4日(日) ※会期中無休

開館時間 : 午前9時~午後5時(金曜日は午後8時まで)

※7月8日は10:00開館 ※入場は閉館の30分前まで

料金 : 一般 1,400円 高・大学生1,000円 小・中学生700円

※前売り・20名以上の団体は当日料金より200円引き

※学生券を購入・入場の際は学生証の提示をお願いします。

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳及び戦傷病者手帳の所持者と介助者(1名まで)の当日料金は半額です。手帳を提示ください。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開館情報に変更の生じる場合がございます。最新情報は広島県立美術館(電話・HP・SNS)まで

【縮景園連携】

ワンコイン縮景園 本展入館券の提示により、100円で縮景園に入園いただけます。

開催クレジット

主催 : 広島県(広島県立美術館)、中国新聞社、イズミテクノ、広島ホームテレビ

後援 : 中国放送、広島テレビ、テレビ新広島、広島エフエム放送、FMちゅーピー76.6MHz、エフエムふくやま、尾道エフエム放送、FM1はつかいち76.1MHz、FM東広島89.7MHz

協賛 : 広島県信用組合、一般財団法人ケンシン地域振興財団

企画協力 : 津和野町立安野光雅美術館、株式会社アートワン

問い合わせ先 : 広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上鞆町2-22

TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444

E-mail : iroeuuma2@gmail.com

担当 : 学芸課 森 万由子

広報担当 : 総務課 一色 直香、弘津 かおる

来館の皆さまへ

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、以下の対策を行っています。御理解と御協力をお願いします。

- 次に該当するお客様は、入館を御遠慮ください。
 - ・発熱や、軽度であっても咳・のどの痛みなどの症状があるなど体調の悪い方
- 協力をお願いします
 - ・正しいマスクの着用、手指のアルコール消毒、咳エチケット
 - ・会話は控えめにし、特に大声での会話は行わないでください。
 - ・人と人との接触を避けるため、できるだけ距離を空けてください。
 - ・来館者が多い場合は、入場制限を行う場合がございます。